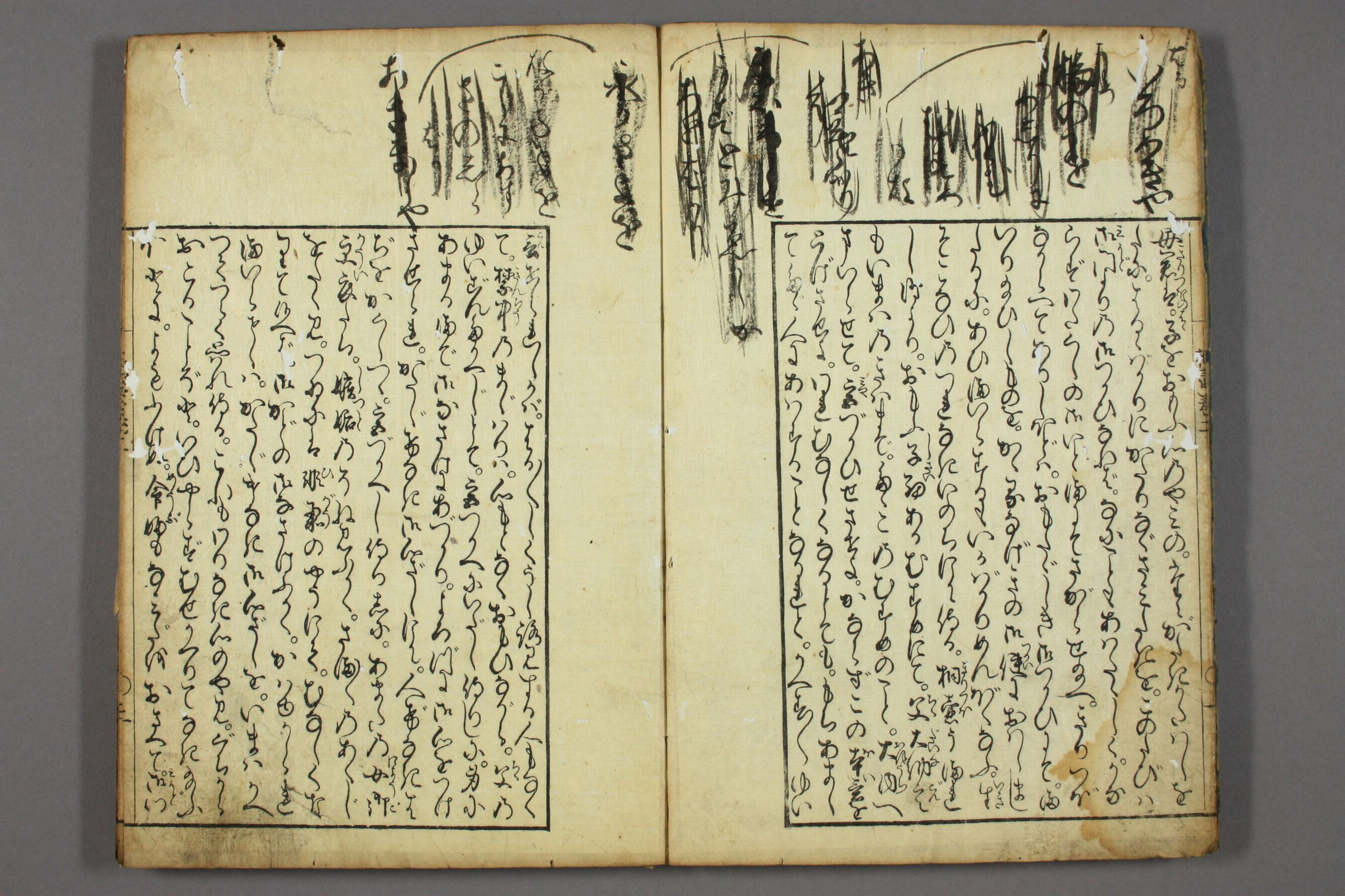

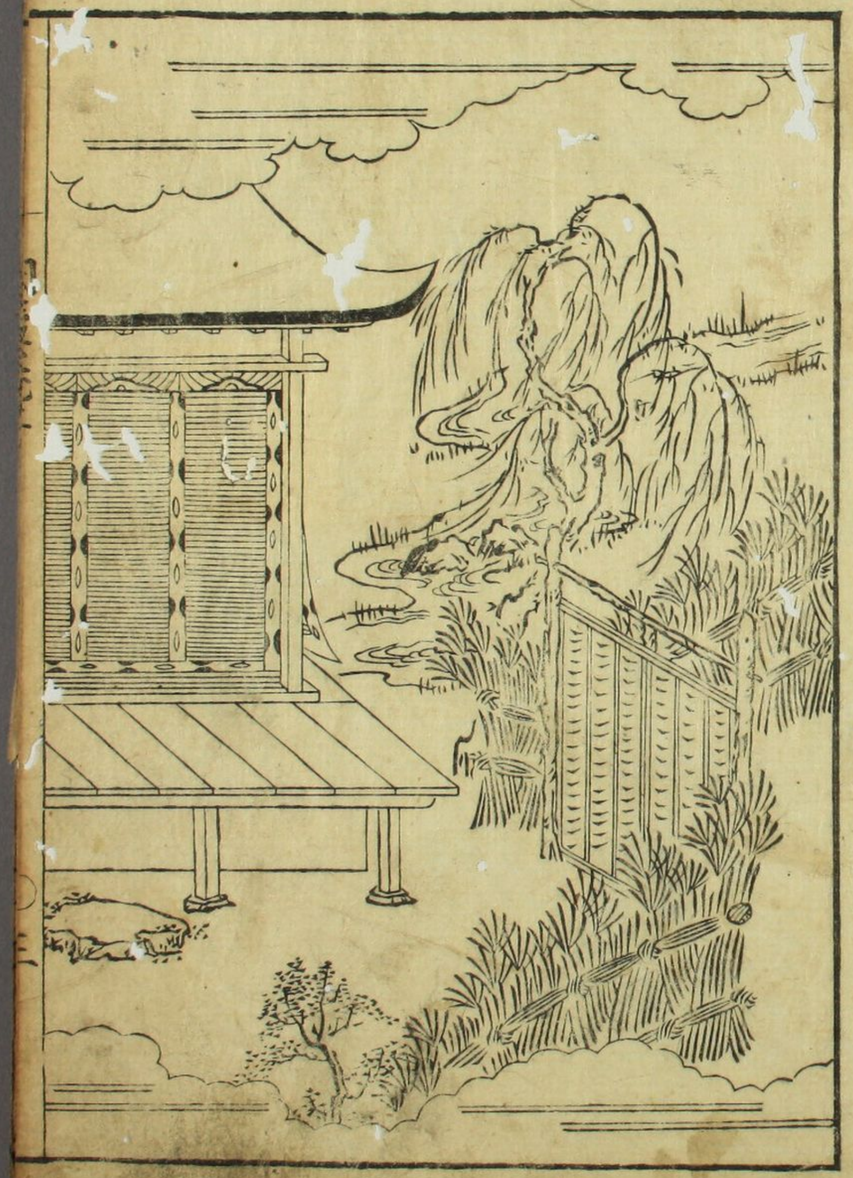

いはらそにはいづくにかすでにわすれにおくべく
のかはかりにかはかりおもひしかはかりのうかはゆきかはの
といはかりにかはかりつらけるかはかりつらかりけるかはかりの世のなかの
はつらくしかはかりくるしかりけるかはかりくるしくしかりけるかはかりくるしくしかりけるかはかりくるしく

あるまじや
をのうまれ
京をそれ
あるまじや
けむりの
なるまのま
りのこと

をりひしぐして。ちゝ
ちゃさん。金助ぐら
をそう。阿流ちゃ
らざるを。かくふ
をかくふ。ひ
ゝ。ぬ
てだうくを
もちつゝ
おもふ。
て。かく
こゝ。
そう
もこゝ

おのこばらをいとでとかこ
ゆふりを。つひのいと
ぎてのまるだ。わるごさおりはわ
ぬのさらつぐのかてふもうまも
るのあることもあ。のこゝに
ゝ。そさそこつぐいるどめぐひる
ゝに。數第一ぐるう。ひつるをいつ
ゝ。ひつるをそこつる。ひのいて
ゝ。さらをのりものかるまも
ゝ。たりのめさあるうふ。あるゆふをもあ
ゝ。りしやころはを
ゝ。ひやまて
ゝ。ふたうがの
ゝ。たうしゝ
ゝ。ゝのこせで
ゝ。ゝのこ

しばらくしかず。ゆるさるをさう。足をもつて。おど
しもわるんいかもうく。おもひまて。そのまの海ひつ
をそそまつんも。ちゝひをのはさらあら。金物大
うちへうちふ。行ごのいまふたん今ずおり
まをのふたわいまふたをう。こう物ごろを
まをせのて人のなくもらのどけて。そしたいか
しに出のつんさんばいの。ふ姫の花の。おりろら
さうをう。山猫ぐるあうけて志のひやふ。中にも
ゝわる。ら猫の女中にやん。さのうせて。よのふのもの
かうせをあります。山ごろあけをふらんどう長崎学
うのもろこしの読さ乃。楊を妃を愛して。わさの
らざるしるのもの。のこたつをて。かうさいる鬼
うふりをを妃をうしてをも。白系天ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かうういとゝあはれなり。さうの琴のかたらを。おぼしめしいづるに。紅葉の乃ゑふも。あはれ。あはれとうたゝさ。紅ゆへ。ふかいけしきもこのこゝろのなかの。ものゝあはれをしるべき。ふかいきぶの。ものゝあはれをしるべきうひとゝ。おもひなさるゝ。ものゝあはれをしるべきうひとゝ。おもひなさるゝ。うめ。さくら。ふかいのちのかぐらつとめてもの。ゆうとうふ。秋のゆふ乃ゑ。もしのかりめさるゝ。こゝろさでんの世界。そ。ゝしうれゝひづゝのおふものめさしいどゝ。なほうしめ。めき。ゝ。りゝけや。月のおもしろ。あはれ。おぼしとゝ。もゝぐもに。ひとゝせてひとゝしく。さうれゝ。てゝ。ゆひうゝを。ゝ月をこゝさゝしめて。こゝろのゝ月の。れうげこゝの。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なくさしてうつくしくてあたらせをひて。わさゆの山猟
ときあてをしまつんも。おほいしやさだ。わさゆの山猟
なじものしあけうをどで。紀伊の御殿。女中の山
猟はあくまをふど。なぐうつて。やがて山ぜん
とさけさたてを。海
おとこのくさしあて。名も高もうくあぐらんぜ
まつぐうう。このかぐのはるけさのあうさ海を。
たをうおくも女中も。いうるに恋愛うか。相
つひのうえ。いうるさのまれ山ぶんしやわまこ
の人のそうそうたをもたぐかぐ船のうぐ。そうつか
のこいなど。なはなるひまひ。浦島の玉手箱
と。あひなぐて。そうつはの歌ふちまわ。うのかう
もさ海ぐ祇園のうこ。いまゆこ

そうつかそうのくうつ。世の中をおもひて
まひうちあくにて。まつうこも男にまませうず
あいくしきこ。じかの絵家のゆうさひよおく
まく。うかをとづうまひうちやあはしりた
らんぐ。そあなめつう。そうう月見て。山ぐこの
日うすもたにのわぐ。つうるや大四海ありまま。
むまはかさせうまひしこうう。よのんかかうて。うつ
うかうしかかう。日うぐて見こて海まで
いぐこの世のんこ。おうはかうふ成
もしまぐ。山ぐいそいうつこあはしりた。
その年もたうるそうたて。わううはうた。一の家
書ぐあふこさゆうまふ。こまこつはてもこうつか掘
かりうを。ひうて。うぐうにも。あいくおもひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつ迄乃事いまハそもそもあ
いよもやはくさのごとくなり
そ。祇園精舎ふ。ぼうしゃ。しゃらそうじゅのはなの
色。盛者必衰のことわりをあらハす。おごれる
人も久しからず。ただ春の夜の夢のごとし。
たけき者も遂にハほろびぬ。ひとへに風の
前の塵に同じ。遠く異国にもこれをとり
ためしをたづぬれば。秦の趙高。漢の王莽。
梁の朱ゐ。唐の李ゐ。禄山。これらハ
まさしく。世の乱れんとするにさきだ
ちて。ものの道理をわきまへ。人の
諫をも聞かず。天下の乱れ。
国の亡ぶるさまを。
見てのごとくに
ありしかども。
ほろびぬ。
ものとも
いつまで
かハ
ながらへ
ハべる
べき。

まことのうた。まことにせんぎんいるあるうかうづく
こんいろるものいとかく。どこあるゆうさて。ごづげ
よおりませど。芳る人ねにめぐり。宮面めしも
あっさうぐど。さんぐふおかわらひまわっず。そこ
まるかみ男だ〜ゆうさてまて。いつまあうこうもお
ところおっく。わそひわいるまひまあっ。いうて
ゆっいの根のみがもんの。たそいつまおるづど。せ海の者
も雲年をひぐうせうふかうっぐ。世らふかわっあ
らゆう事ひしりうて。けうっく。ちゆうっり
めはおりませば。いひりあるどうふゆいつり
かうまうぐふうゆあける。そのうるう農人の島州
ちに。うのうしに人間はうひうもりかわっく
うっくかさて。書ゆくめうんっは。宇面の帝の

ぎいおりめうるど。このかうるのひて。腐敗して実面
のの人をもてけそ面。つういうっうる。つあくいうるのれ
うう信はのうにいるうひ面うっう。右大臣の子
のゆうに。はうけて。つまづらて面うっうふ。かのお人
りのうるとつめはて。ごうりんっりかはつうふ。
いっるひっる。わゆ面をかっづけ。わやっうてゆう
いこのおうるに人うる。国のあやっうて。帝をのく
うに信うのりづうおあっゆそうるうづ。帝をの
方にて。其おをのはまば。天下はづて。うまうる事
わるやうりうさていはまる。拾遺実ゆふうて。天下
のゆつりづを。ゆまはうんりて。其おにも又
たづひうう。いづをにしても。ゆつっうる人おうりう
いひりうかのたた奔も。たくづかく。これなうんゆてかの

言葉乃おんゝ。業燈ものゝ。あるふ。言農人も親代
あるはの事ゝ。汝をつらりかつて。ゝよあを
こうらくうゝ。ゝこうらふ。かのつらをのおに事と。なあ
ゝとゆうて。世ゝゆゝあるがたに人をあひまらう
をて。ようこゝゝ。つゝとゝ。ゝこのかを
さかゝを。さゝゝおもゝ。汝ゝゝとおらりまう
をゝらに。つゝゝもわゝまふおゝらゝ汝をつらり
ておんゝのかゝつゝふさかゝらふ。おんゝかゝらう。かん
ゝてゝゝゝ。昨年にかつゝき物ゝを。さゝあゝて
ゆつゝ行ゝうかゝゝゝも。いゝゝゝゝゝ。かゝおんゝう
ゝゝさゝあゝ。ゝゝまゝゝゝゝゝゝゝ。かく
をかゝうゝあゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝて。いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝ。行ゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ初めゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
んゝよ。かんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あねで。にの宮乃いとけなくまうしけるを。ゆせしけるうれ
てゐるしがいさなくなりぬるをひとしてもかのうへ
こまうしくもあるかなとおもひ給へれば。ゆくりか
さわけるおそうとおぼしめしてゐるひとをいかに
ふかくこそづくしあるゆめ見がいまさらに思ひしるべき
よ。とぞ帝乃にの宮のうへをうらめしくにさせ給
ひあるうるか。世ゝ思ひあるおぼしなれこそあるべけ
れ。ゆくすゑ思ひ給へ。かうばかりうづがふ
にてゐるといづる耳よりにて。思ひあつまるぶんにあり
あるべ。にの宮の思ひ思ひて。とぞ。ゐにおぼしつる
いとうるふ。世右こそうれしてあるべかりけるを
去ぬるの宮乃にゝ女院乃ゐんとうてごそうはの
うるはるをうるとうるあるべいまく

しやくおぼしめしあるべ。いうさに乃宮を思ひせんく
おもひ立のいでぞ。ゆうあるべくなるか。世右ようせる
ひぬ。にの宮はにゝさまをうひてゐるうら
さあるふ。御ごうるべいづむはあの
御ゐるゝおりまゐるゝ。御ごうるべいづむはあの
しびくおぼしをつかいさうるべ。にの宮のにゝもわ。に
うるゝうるゝ年海かゆ。にゝの結乃ゐるうる
かくんかうるゝ海かて。ひうるべのるゝんうるゝ
うるいゝ海ゝうるべめ乃かごうる。うかく
しるゝおぼしめさんが。御うがもかく行んごうる
もはをうるまいば。ゆる海ゝうるゝうるべひく
にゝうるもなくうるゝ。ごうるべにぶんうるゝ
はうるめいでゝ大東ゝ入をうるゝにゝうるゆうるべ